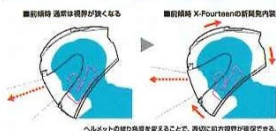


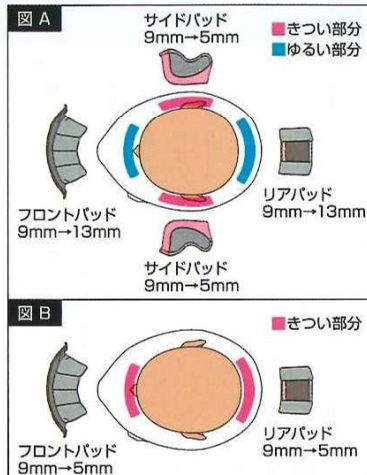
被り角度を2段階調整可能にした内装



右の図が内装の被り角度を前方に約4度回転した状態で、左の図に比べて、同じ首の角度でも、より前方視界を向上させることができることが分かる

独立したそれぞれのパッドは厚さの異なるタイプもオプションでラインナップ。部分的にきつい個所のパッドを薄くしたり、すき間がある部分は厚いパッドに交換することが可能

■内装調整例



内装パッドの調整例。図Aは側頭部にきつさを感じ、前後に隙間がある場合/サイドのパッドを標準より薄い5mmに変更し、前後のパッドを厚い13mmにする。図Bは前後にきつさを感じ、前後のパッドを標準より薄い5mmに変更

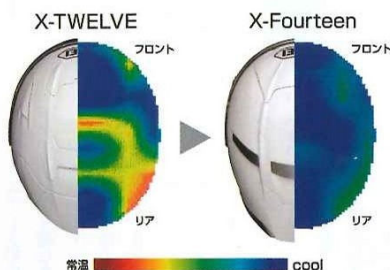
アップライトな乗車姿勢のネイキッドと、上半身が前傾するスーパースポーツ/レーシングマシンでは、おのずとヘルメットが位置する角度が異なる点に着目し、X-Fourteenではライディングポジションにあわせて2段階に内装の被り角度を調整することが可能。チークパッドとセンターパッドの装着位置を変更することで、被り角度が標準ポジションに対して前方に約4度回転し、その結果、上方視界が得にくいレーシングポジションでも、十分な前方視界の確保に効果を発揮。深いリーニングでマシンを倒し込んでいく際に、コーナーの出口までも見渡せるような視界の広さは、あらゆるライダーにとって大きなメリットとなる。

また、センターパッドを6分割とし、全てが独立して交換可能な新たな内装システムを採用。このシステムにより、前頭部、後頭部、側頭部、頭頂部、ネック部の各パッドは、ライダーの頭の形に合わせてパッドの厚みを変えることで(オプション)、最適なフィット感を得ることが可能。内装表面の素材は吸湿速乾性に優れた“HYGRA”と肌触りのいい起毛素材をハイブリッドで採用。チークパッドには、緊急時のヘルメットの取り外しを容易にするE.Q.R.S.を装備している。

前傾姿勢での効果を高めたベンチレーション

強い前傾姿勢でも十分な効果を発揮させるため、エアインテークをフロントとアッパーの2カ所に装備。トップおよびリアスタビライザー内のアウトレットホールから、負圧を利用して効率的に熱気を排出する。さらに、シールド下部に設置したロアエアインテークを2系統に分離。上側インテークは従来同様にシールド内面に走行風を導くデフロスター機能、下側インテークは熱や湿気がこもりやすいチークパッドへと走行風を導く。

■X-Fourteenベンチレーション性能



風洞実験においてベンチレーション効果をカラーグラフ化したもの。色が青になるにつれ、温度が低下していることを示す。100km/h相当の風を30秒送風した時点の温度変化。SHOEI風洞実験施設にて測定した参考値比較



インテークから導入した走行風は、チンバー内に設けられたエアルートを通り、チークパッド裏側よりウレタンに直接送風。ウレタン内部の熱こもりを抑える

空力性能に磨きをかけたエアロフォルム



ヘルメット背面両サイドに付くグレイのパーツがリアフラップ。標準装備は直進方向での空力を重視したこのワイドタイプ。ストレートの長いコースなどで有利



運動性能を考慮したナロータイプはオプション設定で、ワイドタイプから交換して使用。高速ライディング中に頭の位置を大きく移動する場合などに抵抗が少なく有効

チンバー部には脱着式のロアエアスポイラーを装着することで空力性能を高めると共に内部への走行風の巻き込み防止と風切り音を軽減。チンカーテンとの併用も可能



ライダーが強く前傾したライディングポジションをベースポジションに設定。その状態でヘルメット前頭部から後頭部、そしてレーシングスーツ背面へと流れる走行風を風洞実験で科学的に解析し、シェルのデザインを完成させた。シェルの表面に施されたエッジとシェイプ、コンディショニングに応じて交換可能なリアフラップを装備したりリアスタビライザーは直進方向での空力を重視した標準装備のワイドタイプに加えて、運動性能を考慮したナロータイプをオプションで設定。チン（あご）部分には脱着式のロアエアスポイラーを装着することで空力性能を高めると共に、内部への走行風の巻き込み防止と風切り音を軽減。さらにチンカーテンとの併用も可能としている。

風洞実験による比較では従来比（SHOEI社内参考値）で上方に浮き上がるというリフトは-3%、前方から押し付けられるドラッグは-10%、ヘルメットが振られる原因となる回転方向のヨーイングは-50%という数値を達成。大幅に向上した空力性能はライダーの疲労軽減にも大きく貢献する。

SHOEI X-Fourteen 詳解

レースで勝つためのレーシングフルフェイス
2016年より実戦投入されたSHOEIのX-14
その特徴を改めて紹介すると共に
ライダーの柳川明に実戦での感想を聞いてみた
SHOEI Tel:03-5688-5180 <http://jp.shoei.com>

柳川明が語るX-Fourteenの進化



柳川明のヘルメットはブラックベースにカワサキのイメージカラーのライムグリーンをあしらったグラフィック。前頭部左右にイメージキャラクターのシャークのグラフィックが入り、サイドにはゼッケンの87が配置されている

ロードレースを始めて以来、ずっとSHOEIのヘルメットを愛用している全日本JSB1000ライダーの柳川明。柳川のレース人生はSHOEIのXシリーズの進化と共にある。「X-8の各シリーズ、11、12、14とシリーズを追うごとに、SHOEIのヘルメットは進化していますね」と柳川は語る。

レースはもちろん、プライベートでもZRX1200ダグでツーリングを楽しむなど、公私共にバイク好きとして知られる柳川だが、今年の5月にSPA直入で行なわれたイベントにゲストとして招かれた際に、サーキット体験走行の先導役を務めるために、レースのときと全く同じ装備で愛車にまたがって移動することになった。ヘルメットはもちろん、レースで使っているX-14だ。

「レースで使うヘルメットはきつめのフィッティングなんです。1993年にデイトナ200マイルを走ったときに、デイトナのバンクの強烈な縦Gでヘルメットが動いてしまって、それ以来、フィッティングがきつめのヘルメットでないと安心できないんですよ。レース用のヘルメットで公道を走行する場合、走

る時間も長いし、逆にフィッティングのきつさが気になるものなのですが、高速道路、一般道を乗り継いで約3時間弱ノンストップ、つまり、一度もヘルメットを脱がずに走って、レース用のヘルメットということに忘れてしまうくらい快適でしたね。X-14の内装やライナーの進化を感じました」

では、本業のレースではX-14はどう進化しているのだろうか。

「空力性能の向上を実感しています。300km/hを越えるスピードで走りますからすごい風圧です。スクリーンの中に伏せていても、そこから少し出た瞬間に頭が風圧で振られるのですが、それが大きく抑えられています。X-14はシェルの形状やリアのフラップ、あご回りの形状など、進行方向はもちろん、横方向の空力もよく考えて作ってあると思います。サーキットでもとても快適なヘルメットですね」

全日本では2戦目終了時点でランキング4位につける柳川。まもなく鈴鹿8耐も控えている。X-14はこれからのレースでも柳川の大きな武器となってくれるはずだ。

ソリッドカラーからグラフィック、レプリカモデルまでラインナップ

X-Forteen (X-14) はソリッドカラーがホワイト、ブラック、マットブラック（つや消しブラック）の3色と、登場したばかりのグラフィックモデルのアセイルが3色、MotoGPライダーのマルク・マルケスレプリカとブラッドリー・スミスレプリカが現在ラインナップする。歴代Xシリーズ同様、今後はレプリカモデルのバリエーション展開も増えるはず。お気に入りのモデルをこの中から見つけてみよう。



ホワイト
6万円（税別）



ブラック
6万円（税別）



マットブラック
6万円（税別）



アセイル TC-1 (レッド/ブラック)
7万3000円（税別）



アセイル TC-2 (ブルー/ホワイト)
7万3000円（税別）



アセイル TC-10 (レッド/ホワイト)
7万3000円（税別）



MARQUEZ4
7万6000円（税別）



Bradley3
7万6000円（税別）

■規格/JIS規格、SNELL規格、MFJ公認 ■サイズ/XS (53~54cm)、S (55~56 cm)、M (57~58cm)、L (59~60 cm)、XL (61~62 cm)、XXL (63~64 cm) ■付属品/プレスガード、チンカーテンD、ロアエアスポイラー、CWR-F Pinlock® lens、シリコンオイル、シールド用ステッカー (No.11ステッカー)、専用布袋

自然でクリアな視界を確保する新開発のCWR-Fシールド

2次曲面シールド「CWR-F」



部位に応じて微妙な曲率や厚みを最適化することで光学特性を徹底的に高めた、ポリカーボネイト製の新開発2次曲面シールド「CWR-F」を採用。自然でクリアな視界を確保すると共に、シールド剛性を高め、高速走行時のシールドのたわみやよじれを解消。QR-Eシールドベースとのコンビネーションで簡単確実な着脱、そして可変軸ダブルアクション機構で高い気密性を確保。

シールドロック機構は、フックの噛み合わせだけではなく、スライドレバーで外側からもホールドするダブルロック構造。転倒時等の不意なシールド開放を防ぎ、確実なシールドロックを実現。

ティアオフフィルム（オプション）を装着するためのティアオフボタンは、調整が容易な偏心式アジャスター内蔵のラチェットタイプを新開発。裏面にはPINLOCKピンを装備し、広い視界をカバーする新設計のPINLOCK EVO lensが装着可能。

4サイズのシェル、5サイズのライナーで最適なフィット感を選択可能に

あらゆるライダーに最適なフィット感を提供するため、4サイズのシェルと5サイズの衝撃吸収ライナーの組み合わせでXSからXXLまでの6サイズをカバー。これが最適なフィット感を実現している。強靱なガラス繊維と有機繊維を複合積層したAIM+構造のシェルは、定められた安全規格を余裕でクリア。JIS規格に加えて、最新のSNELL規格にも適合する。